（令和元年度　第2号）

翔洋通信

翔洋学園高等学校
渉外・図書部編集
令和元年12月18日発行

創立20周年記念式典が開催されました

11 月 1 日㈮，水戸プラザホテルにおいて翔洋学園高等学校創立 20 周年記念式典が開催されました。

実行委員長挨拶　　佐藤睦美 理事長

県内初の私立通信制高校として創立して 20 年を迎え現在では 2700 名の生徒が在籍している学校に進展しました。この 20 周年を更なる飛躍の機会にすべく新たな教育の創造，伝統の理解を深めるとともに，今後の翔洋学園の未来構想『Future　Conception～未来を拓く』を作成いたしました。

校長式辞　　中村昌平 校長

『面倒見の良さ』をスローガンに 20 年の積み重ねをしてきました。この 20 年を機に激しく社会が変化する中，生徒自ら未来を創造する力を『明日力』ととらえ自分育てをし，未来を切り開いていく人材育成と「共生」「共働」を目指す地域社会と共にある次世代型教育のパイオニアを目指していこうと，ここにスタートを切ることにいたしました。

新しい制服のお披露目もありました。

『Future　Conception～未来を拓く』変化の激しい時代に合った教育を目指して未来構想を作成いたしました。

『創立 20 周年記念誌』および記念品（ボールペン，クリアファイル）は HR 等で配付いたしました。

生徒代表挨拶を述べる西村詩織さん

生徒を代表して，西村詩織さん（日立学習センター）が挨拶を行いました。

「これからの私たちの一歩が 30 年，40 年と続く翔洋学園高等学校の歴史に刻まれます。そのことを誇りに思い，学校生活を送っていきたいと思います。」

教務部より～創立２０周年を迎えて～

今年度，本校は創立 20 周年を迎え，令和元年度前期卒業生を含め，現在 13,043 名の卒業生を輩出することができました。20 年の歴史の中で，通信教育の意義や本校としての使命や役割などを模索しながら，学校として様々な変革を遂げて参りました。創立以来 20 年という節目を迎えるにあたり，これまでの本校の取り組みや歴史について，「創立 20 周年記念誌」として編纂いたしました。記念誌の中で，本校の卒業生や在校生，保護者の方々に本校でのエピソードや思い出などを寄稿していただきました。その内容から，改めて通信制高校には多様な夢や希望を持つ生徒，様々な壁や課題と向き合う生徒が多く入学してきていることを実感しました。また，寄稿文を通し，本校でこれまで取り組んできた教育を通して卒業生や在校生たちが大きく成長し，飛躍することができたことが感じられ，大変うれしく思いました。創立 20 周年記念誌は，生徒の皆様を通して配付いたしましたので，是非保護者の皆様にもご一読いただければ幸いです。

本校では生徒たちが充実した学校生活を送り，生徒それぞれが本校での学びを通して「自分育て」をし，「明日力」を身につけさせるということを教育目的として，学校教育を行ってきました。少子高齢化や情報化や AI 化など，世情は日々変化しております。それに伴い価値観や生き方も多種多様化を極めております。そのような世情をふまえ，新たな通信教育，新たな翔洋学園を目指し，今後も学校運営に努めて参ります。

楽しかった修学旅行！

9 月 25 日（水）～28 日（土）広島・大阪・京都に 3 泊 4 日で修学旅行に行きました。初日の広島では平和記念公園での平和学習。教科書に載っていない戦争の悲惨さを，実際に体験した方から伺いました。たくさんの折り鶴を見て平和とは何かを考えさせられました。

広島での集合写真

2 日目は宮島口から船に乗って厳島神社を訪問。さすが世界遺産，荘厳さがスゴイ。厳島の鹿は紙袋を食べてしまうので奈良の鹿よりもお行儀が悪いかな？その後，新幹線で大阪へ。9 月末というのに 30℃超えで大阪城の階段の上り下りは汗だくでした。熱中症気味の生徒も出てしまいました。道頓堀は TV で見るのと同じ迫力でした。

3 日目は USJ で自由行動。前日までの疲れも何のその。7 時ごろには朝食をとり，準備万端。この朝食が大好評。とっても豪勢でみんなご満悦。ハロウィンシーズンは特別なホラーナイトもあるので，1 日満足してご帰還。乗り物にもたくさん乗れました。

最終日雨の確率が高かったはずが，京都に着いたら晴天へ。八つ橋を作ったり，タクシー班別行動をしたりと短いながらも京都を楽しみました。今年はお天気にも恵まれ，大きなトラブルもなく楽しく無事に終わることができました。一生に一度の貴重な経験は，かけがえのない思い出になったのではないでしょうか。

◆修学旅行の感想　　土浦学習センター　大槻 紗葉理 ◆

今回の修学旅行で特に印象が強かったのは，広島での平和講話です。資料館では原爆の表面しかわかりませんでしたが，原爆を体験された方の話は，とても衝撃的でした。学童疎開で自分だけが助かり，孤児になった子供たちが生きていくために，新聞を水で流し込んだり，石を舐めたりして飢えをしのいだことなど，教科書や資料館にはない話に胸が締め付けられました。そして，この話を平和な世の中を生きている沢山の人に知ってもらいたいと思いました。それから被爆した人たちに自分ができることはないかと考え，旅行の後から千羽鶴を折っています。私たちのような高校生に辛い話をして下さった感謝と，この残酷な現実を忘れないようにいつか原爆ドームに届けられるように頑張ろうと思います。

定時制通信制生徒生活体験発表大会

『定時制通信制生徒生活体験発表大会』は，定時制や通信制の学校で学ぶ生徒が学校生活を通して学んだ貴重な体験を発表する場として開催されています。本校では，毎年各センターの代表者による校内大会を開催し，学校代表の2名を選出しています。学校代表に選ばれた2名が県大会へと進み，これまでに何度も茨城県代表として全国大会出場を果たすなど輝かしい実績を残しています。

今年度は7月26日（金）に水戸学習センターで校内発表会が行われ，10センターから11名が参加しました。生徒一人ひとりが学校生活を通して，体験し，学び，感じたことを表現力豊かに自分の言葉で発表する様は聴く者の心に感動と励ましを与えるものでした。

発表順	学習センター	氏　名	演　　題	結 果
1	土浦	渡辺　麻衣子	道	優秀賞
2	水戸	堀江　美羽	共生社会をめざして	最優秀賞
3	山形	石川　湧太郎	僕の挑戦	優良賞
4	下館	大浦　春香	私は宣言します。	優良賞
5	日立	金澤　朝香	誰かのためのスポットライトに	最優秀賞
6	会津	生江　琴美	回り道なんかじゃなかった	優良賞
7	千葉	遠藤　美生	本当の自分	優秀賞
8	いわき	青木　さくら	夢を掴む・・・	優良賞
9	柏	小林　千紘	リスタート　～心に寄り添って～	優良賞
10	日立	西村　詩織	下を向く人、上を向く人	優秀賞
11	古河	中村　愛美	笑顔	優良賞

校内発表大会を終えて

その中で，最優秀賞に選ばれたのは金澤朝香さん（日立本校）と堀江美羽さん（水戸学習センター）でした。この2名は10月19日（土）に鹿島灘高校で行われた茨城県大会に出場し，金澤さんが茨城県議会議長賞を，堀江さんが鹿嶋市長賞を受賞しました。おめでとうございます！

＜発表内容要約＞

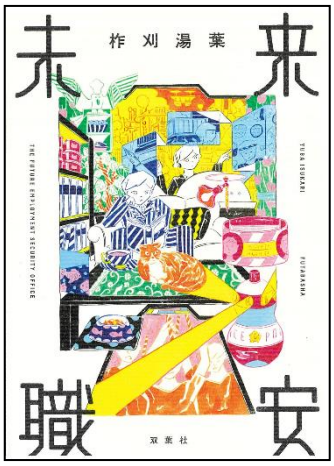
茨城県大会　左：堀江さん，右：金澤さん

金澤朝香さん：「『間違い探しの間違いの方に 生まれてきたような気でいたけど ..』歌の歌詞です。知り合いの誰もいない学校に来たかった私が演劇サークルからボランティア、国際交流など様々な活動に参加。見学が当たり前だった体育も翔洋に来て初めて楽しむこともできた。誰かのためのスポットライトに自分がなれたら。」

堀江美羽さん：「発音をバカにされて不登校になったこともあった。耳の聞こえないことは不幸ではなく，多様な人が一緒に共生していく社会になることを信じています。そんな社会に貢献できるよう働いていきたい。」

図書コーナー

本コーナーでは渉外・図書部職員おすすめの本を紹介していきます。もし興味がありましたらお手に取ってみてください。



＜書名＞
『未来職安』
著：柞刈 湯葉　　出版社：双葉社　　発行年月：2018年7月

＜ブックレビュー＞
コンピュータやロボットが普及して人間は働く必要が無くなった，という未来の日本を舞台にしたフィクションの小説です。行政から支給される「生活基本金」だけでも生活することのできる社会ですが，そんな中でも仕事を持つ「生産者」になろうとする人たちがいます。主人公もまた彼らに仕事を紹介する「職安」の仕事をする「生産者」です。働かなくてもいい時代に、彼らはなぜ働くのでしょうか…？
漫画のようなコミカルなキャラクターと文章で展開する小説なのでとても読みやすいですが，読んでみると働くことの意味や，現代にも見られる様々な問題について改めて考えるきっかけにもなってしまう，そんな作品です。是非ご覧ください！

翔洋の軌跡　～開校当初から勤務されている先生へインタビュー～

翔洋学園高等学校は平成12（2000）年に茨城県内初の私立通信制高等学校として開校しました。本コーナーでは20年を振り返り，そしてこれからの翔洋学園高等学校についてご説明をしてまいります。
第2回目は，開校当初から勤務されている間中 秀吉先生のインタビューを通して，学校のこれまでのあゆみとこれからについてご紹介いたします。

間中 秀吉　先生
（古河学習センター）

―開校当初はどんな雰囲気の学校でしたか？―
学習センターでは行事もあまりなく，レポート学習の場という感じで静かな雰囲気の中，個別に学習を進める生徒に教員がサポートする学習塾のような学校でした。

―その後，どのような取り組みをされてきましたか？―
生徒の皆さんと触れ合う機会を多く持つために，各学習センター独自の行事をはじめ，各種定時制通信制高校の大会等への参加を促しました。生徒の皆さんが参加できる機会を少しずつ増やし，学習センターでの個別学習に加え，校内外の学習活動と各種行事など特別活動への参加体験を中心とした新たな通信制高校での学校生活の在り方を見つけることができたと感じました。

―創立 20 周年を迎えた感想，そしてこれからについて思いをおきかせください―
この 20 年間で私は 500 名以上の生徒の皆さんの担任として，巣立っていく卒業生を見送ることができました。毎日会うことは少ない通信制高校ですが，その分一人ひとりと向き合って話をすることも多く，さまざまな思い出をつくることができました。この 20 年間での生徒・保護者の皆さんとの出会いの一つ一つに感謝しています。
これから，25 年，30 年新たな出会いと共に，翔洋学園高校の発展の一助になれるように日々研鑽を積んでいきたいと思います。